

消防 だより

放水開始

急げ消火だ！

第七回河北郡消火技術競技大会

郡内の事業所の防火意識の高揚と初期消火技術の向上を目的として、河北郡防火協会が主催する消火技術競技大会が、八月二十八日（土）河北広域消防事務組合消防本部グラウンドにおいて開催されました。

当日は天候にも恵まれ、郡内から参加した事業所を代表する三十九チームの選手達は屋内消火栓と消火器の部に分かれ、職場でのチームワークの良さを発揮し、迅速確実に消火技術を競い合いました。

結果は当町より参加した「伊丹産業チーム」が屋内消火栓の部で見事優勝し、日頃の訓練成果を発揮した大会でした。尚、当町から参加したチーム及び結果は次のとおりです。



○屋内消火栓の部

- 優勝 伊丹産業株式会社
- 第三位 有限会社政見製作所
- 敢闘賞 日研産業株式会社

○消火器の部

- 第三位 伊丹産業株式会社
- 敢闘賞 有限会社政見製作所
- 金沢医科大学病院

緊急時の通報
119番

火災情報案内 286-1999
消防警一般電話 286-3301

防火の輪
つなげて広げて
なくす火事



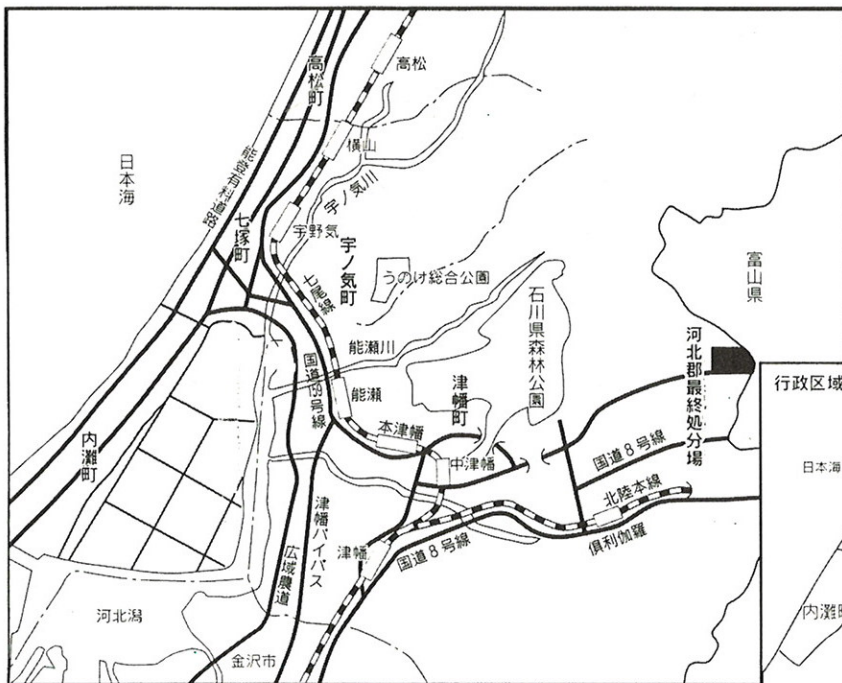
「防火の誓い」

少年消防クラブ防火研修！

内灘町幼年婦人防火委員会は、八月二十四日（火）内灘町サイクリングターミナルにおいて、大根布第三町内会及び大学町会の小学五・六年生を対象にした少年消防クラブ員の防火研修会を開催しました。

当日は、正しい花火の使用方法、防火ビデオ、講話、消火器の取扱等を実習しました。特に消火器の取扱では、慣れない手つきながらもクラブ員として一生懸命取り組んでいました。研修後、少年消防クラブの今後の活動内容についても話し合い、今一度防火の誓いを新たにしました。

宇ノ気町気屋地区の最終処分場が平成十一年九月末で閉鎖され、十月一日からは津幡町荻谷地区に建設された河北郡最終処分場が供



お知らせ

用開始となります。「もえな いごみ」を搬入される方は、役場町民生活課に地図を用意してありますのでご利用ください。

問い合わせ：町民部町民生活課 ☎286-6701



きらり輝く
人とまち

「菊香る文化の祭典」

文化ウィーク

平成十一年十一月七日(日)
～十四日(日)

美術展、総合文化祭、オーケストラアンサンブル金沢コンサート、砂丘フェスティバル等さまざまな催しがあります。

また、文化協会創立二十周年記念式典も同時に行われます。たくさんの方の皆さまの参加、観賞をお待ちしています。

内灘町総合文化祭

日時 十一月七日(日)
場所 内灘町文化会館

尚、競技部門は
囲碁 緑台公民館
将棋 中央公民館
かるた アカシア公民館

内灘町美術展・内灘町ジュニア美術展

日時 十一月七日(日)

～十四日(日)

場所 役場町民ギャラリー(六階)

美術展の作品と姉妹都市羽幌町の作品
役場町民ホール(二階)―ジュニアの作品



文化協会創立二十周年式典

日時 十一月七日(日)
場所 役場町民ホール

尚、美術展、ジュニア美術展の表彰式も行われます。

オーケストラアンサンブル金沢コンサート

日時 十一月九日(火)
場所 文化会館大ホール
入場料 二,〇〇〇円

砂丘フェスティバル

日時 十一月十四日(日)
場所 文化会館大ホール
入場料 二,〇〇〇円

第十九回 婦人意見発表大会

～よりよい生き方をめざして～

今年も、すばらしい発表が期待されています。

皆様、どうぞお気軽に発表を聞かされ、また応援にお越しく下さい。

日時 十月十五日(金)
午後七時三十分

場所 内灘町役場 町民ホール
主催 内灘町連合婦人会

地区代表者

旭ヶ丘	越川 豊美
緑台	長野 佳代
向陽台	柳原ますみ
鶴ヶ丘西	塩谷 祐子
大根布	原田美栄子
西荒屋	野口 紀子
アカシア	野崎 陽子
千鳥台	原 弘美
鶴ヶ丘東	平山美津枝
鶴ヶ丘北	東海林範子
宮坂	上前りゆう子
室	広瀬由美子

第七回内灘町 スポーツ・レクリエーション祭

期日 十月十日(日)

時間 午前八時三十分集合・受付
午前九時競技開始

種目

○グラウンドゴルフ

時間 午前九時～正午十二時
(受付は午前八時三十分)

場所 グラウンドゴルフ倶楽部
(福祉センター前)

○ソフトバレーボール

時間 午前九時～
場所 内灘中学校体育館二階
内容 フリーの部、女性の部、ファミリーの部

○ターゲットボードゴルフ

時間 午前九時～
場所 内灘中学校グラウンド
(雨天時、ニュースポーツ体験コーナーに参加してください。内灘中学校一階体育館)

○ベタンク

時間 午前九時～
場所 内灘中学校グラウンド
(雨天時、室内用ベタンク、内灘中学校一階体育館)

○ふれあいバドミントン

時間 午前九時～午後三時
場所 内灘体育館
内容 ダブルスの試合

○ラージボール卓球

時間 午前九時～
場所 清湖小学校体育館
内容 初心者部、小学生親子の部、一般の部

問い合わせ

内灘町教育委員会 生涯学習課
☎286-6716

あった、あった、ボクの作品

野焼き大会

八月二十一日(土)内灘海水浴場で、縄文時代の焼き物を再現する野焼き大会が行われました。

参加者は、内灘町生きがいセンターの陶芸講師平田良仁先生の指導を受けながら、空木の棒と檜の板をこすって火をおこし、縄文時代さながらの粗穀をかぶせた窯に点火しました。約六時間かけて焼き上がった作品が次々と取り出されると、だれもが世界でただ一つの土器に満足顔でした。



内灘

砂丘文学

フェスティバル

日時：1999年11月14日(日) 14:00~16:30

会場：内灘町文化会館

砂と水と森と

—木崎さと子さんのこと

森井道男



木崎さと子 (きざき・さとこ)

旧満州・新京(現・長春)に生まれる。敗戦後に引き揚げ少女時代を富山県高岡市で送る。1962(昭和37)年に結婚。植物生理学者の夫とともに長くフランスで暮らす。1979(昭和54)年に帰国後、文筆活動に入り、1985(昭和60)年、「青桐」(文藝春秋)で芥川賞受賞。他に、「山賊の墓」(講談社)、「沈める寺」(新潮社)、「時の雫」(中央公論社)、「夢の記憶」(岩波書店)など多数。作品は氷見市や能登半島を舞台にしたものが多く、北陸と関わりの深い作家である。

たとえば、こんなところを読んで共感を覚える読者は多いだろう。

—火傷。原因は何であれ、そのひきつれを含めて自分の顔である。鼻が低かろうと色が黒かろうと、また頭脳がわるかろうと走るのが遅かろうと、あるいは、ひねくれているうと、痲癩もちだろうと、それらの欠陥を含めて「自分」なのだ。

これは、木崎さと子(以下敬称略)が芥川賞を受けた「青桐」の一節である。女主人公充江は、幼い日に父母と死に別れ、叔母に育てられた。叔父の死後、北陸の旧家の女主人として屋敷を維持し続けた叔母を、充江は美しい人としてあこがれて来た。

充江にはまだほんの子供だった時、天ぷらをあげていた手伝いのばあやにまつわりついて、熱い油のしぶきを浴びた過去がある。そのため顔に火傷のあとが残り、三十歳の今まで結婚せずに兄浩平一家と共に暮らして来たのだ。

叔母の長男史郎は東京の大学を出て世帯を持ち、娘晴子は夫と共にアメリカに滞在していたが、その叔母が今度、史郎につきそわれてひっそりと田舎に帰って来た。叔母は実は十年も前から乳癌にかかっており、医者には見せず、自然死を望んで帰って来たのだ。

癌というものも、まるまるそのひとの生命“の”ことだという叔母は、医

者にかかればすぐに入院させられて器械のように扱われ、延命治療になるだろうことを拒んでいた。死への心準備はとうに出来ており、静かな自然死を全うしたのである。

…臭うやろ。

叔母は時々かすかに苦笑すると、仰向けに寝たままオードコロンを胸元に吹きつける。

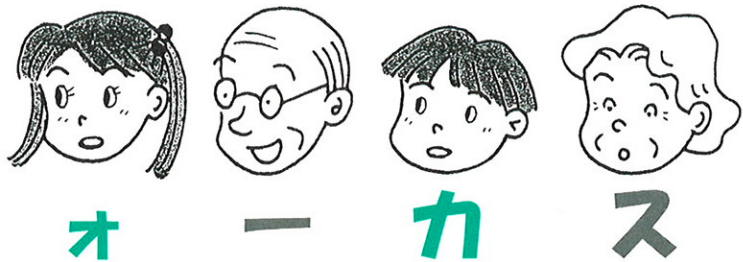
充江が三十過ぎまで結婚せずにいたのは、火傷のこともあったが、従兄史郎への秘めた思慕もあったのだ。自分の火傷には叔母が関わっていたのではないか、ということを見に聞かされて、充江はひどく動揺するが、帰国した晴子のおだやかな話も聞き、最後はまるごと叔母を愛して来た自分を信じて、看護することを決意する。

ほろびてゆく肉体とよみがえる心の交差するさまを、「受容」というかたちで描きたかったと木崎さと子は、「あとがき」で語っている。読んでいると決して難しい小説ではなく、地味なお話でもなく、どこかに推理小説のような面白さもあって、私は一気に読んでしまった。

この秋、内灘へやって来る著者が、砂と水と森のある内灘の風土をめぐって、どんな話をくりひろげてゆくか、読者の皆さんと共に楽しみに待ちたい。

(日本ペンクラブ会員)

金沢医科大学非常勤講師)



先生もすいすいインターネット

夏休みを利用した8月23日、町内の小・中学校の先生を対象としたコンピュータ活用研修講座が開かれました。清湖小学校のコンピュータ・ルームで開催されたこの講座は、町内の小・中学校の校長先生や教頭先生もまじって、ホームページリンク集を作成する手順を学ぼうというものです。

NTTから招いた講師から詳しい方法を学んだあと、コンピュータ研究委員会所属の先生の教えも借りながら、先生たちは、今後の授業に役立てようと、さまざまな工夫を凝らしたリンク集の作成に汗を流していました。



チャリティー内灘民謡まつり

内灘町民謡協会主催の内灘民謡まつりは、8月29日(日)内灘町文化会館で600人余りの聴衆を集め華やかに開催されました。

今年で3回目を迎えるこの会は、町内で開かれている各民謡教室の発表会も兼ねており、参加者は日頃の練習の成果を思う存分披露しました。三味線・唄・踊りなど多彩な演し物が繰り広げられた舞台は、出演者も聴衆をも包み込み、参加者は日本の伝統芸能をこころゆくまで堪能している様子でした。



学校に泊まろう!!

大根布小学校親子体験宿泊研修

夏休みも終盤の8月28日(土)・29日(日)、大根布小学校では親子のふれあいと、集団での生活を体験する目的で「学校に泊まろう!!」という企画が実施されました。全部で18班に分かれた参加者は、タマネギの皮むき係、肉炒め係、ゴミ出し係など分担が決められ、和気あいあいと夕食づくりを楽しみ、出来上がったカレーライスに親子で舌鼓を打ちました。夕食後に実施されたファイヤーストームは、強風のため点火した炎はすぐに消されましたが、ゲームやフォークダンスの楽しい催しは先生も交えて夜遅くまで続けました。



5年2組 長谷川あきさん
(左端)

夏休みの宿題は全部済ませました。今日はみんなと一緒に泊まるので楽しみです。



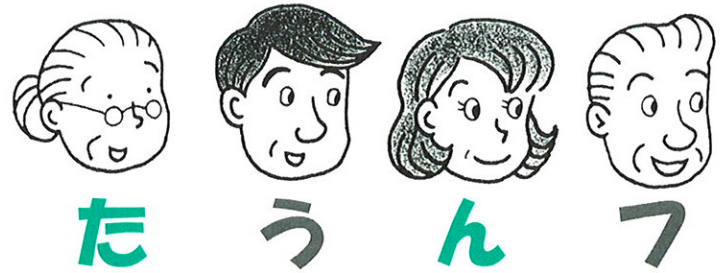
いつまでもおたっしやで 町内在住75歳以上の方に記念品

現在、内灘町にお住まいの75歳以上のお年寄りには1,343人。このうち、北すてさん（室、97歳）と、生田 葵とさん（宮坂、96歳）宅に岩本町長が訪れ、記念品が贈られました。お二人とも、日常生活では他人の手を煩わせることもなく、また記憶もしっかりしており、訪問した岩本町長に「ありがたいことです。」とお礼のことばを述べていました。健康で長生きすることは私たちすべての願いです。いつまでもおたっしやで！



北 すてさん

生田 葵とさん



準備万端

小中学生友好訪中団事前研修

9月19日から中国を訪問予定の、内灘町小中学生友好訪中団の第2回事前研修が8月30日（月）役場で行われました。この日は訪中先で披露する歌や、リコーダーの練習、またホームステイ先へのみやげとなるけん玉や手作り凧などの製作を行いました。夏休み中、サイクリングターミナルで第1回目の宿泊研修を終えているメンバーは既に顔見知りとなっており、日本海内灘砂丘凧の会のみなさんの手ほどきで一先懸命かわいらしい和凧の製作に励みました。

一行は、訪中の直前にもう一度研修を実施し、あいさつの仕上げの練習等を行ったあと、7泊8日の予定で中国を訪問します。



アタック・シュート 勤労者ソフトバレーボール大会

働く人たちが気軽に楽しく健康づくりができ、職場や家庭に共通の話題と和を提供できるスポーツとして、第2回勤労者ソフトバレーボール大会が、8月29日（日）内灘体育館で行われました。県内在住で15歳以上（全日制学生除く）の人全てが参加できるとあって、当日は111チーム1,000人を超える参加者があり、選手たちは和気あいあいと競技を行いました。競技は50歳以上の部、40歳代の部、30歳代の部、29歳以下の部、女子の部の5部門で行われ、当町から出場した選手は29歳以下の部で優勝、30歳代の部で2位という成績に輝きました。日頃の運動不足でお悩みのあなた。これを機に何かスポーツを始めては？



出島関につづけ！

石川県少年相撲選手権大会

快晴の9月5日（日）内灘中学校相撲場で石川県少年相撲選手権大会が開催されました。うだるような暑さの中、相撲場は選手・応援団のみなさんでむんむんする熱気に包まれましたが、選手達はたくましい体で暑さをはねのけるように熱戦を繰り広げました。当町からは西荒屋小学校から二ツ谷剛俊（4年）、野口涼介（5年）、野口拓大（6年）の3名が出場しました。

この相撲大会では、過去第3回と第4回に内灘町が優勝を果たしたこともありますが、近年では相撲クラブそのものに入部希望者が無く、さみしい限りです。伝統ある国技、相撲。そのすばらしさをもう一度見直してみたいものです。

うちなだ 再発見!

うちなだの祭礼

秋本番。秋といえば祭り。九月下旬から十月にかけて、町内の各地区では盛大に秋祭りが催されます。祭りと聞いただけで心騒ぐ人も多いことでしょう。現在、昔からの伝承として祭礼を受け継いでいるのは、向粟崎・大根布・宮坂・西荒屋・室の五地区。この地区ではそれぞれ代々獅子頭を受け継いでいますが、この内、宮坂の獅子頭は額に剣梅鉢の紋をつけています。これは旧黒津船地内が加賀藩崇敬の小浜神社の社地内にあつた関係だと考えられます。これら獅子頭はいずれも金沢獅子系統



顔に化粧をした奴の青年（西荒屋祭礼）

の大獅子で、獅子舞も金沢獅子舞の流れを汲んでいます。

向粟崎・西荒屋では獅子には必ず棒振りが対峙するのに対し、大根布では神社の拝殿で獅子だけが舞う場

面があり、同様な舞は宮坂の祭礼においても見られます。また室では花棒を持った棒振りが対峙します。この風習は隣県富山に多く見られます。

それぞれの地区では奴行列が毛槍などを携え独特の囃で行進しますが、その所作も各地区で違うのもおもしろく、宮坂、西荒屋は奴となる青年は顔に限取の化粧を施します。また、向粟崎では悪魔祓いという独特の役があり、これは藩政時代に、金沢の修験山伏が市中をまわつて悪魔祓いをしたのが起源ではないかと言われています。刀を持った天狗面、鉞を持った翁面、弓を持った般若面。これら独特の振り付けは、小学生や中学生によつて連綿と受け継がれています。

また、大根布では、五つの集落にそれぞれ連合会と呼ばれる若衆の集まりがあり、その連合会が主体となつて、獅子と棒振りを独自に受け継ぎ伝承しています。獅子頭も連合会ごとに一体ずつ、計五体あり、その



花棒を持った棒振りの少年（室祭礼）

舞い方、振り方が集落毎に違い、元の人は舞や振りを見ただけで、どの集落のものかがわかると言います。このように、同じ内灘町にあつても地区によつて少しづつ違う祭礼を、順にその違いを確認しながら見物するの、また興味深いものですね。